

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2001-299175
(P2001-299175A)

(43) 公開日 平成13年10月30日 (2001.10.30)

(51) Int.Cl.⁷
A 0 1 K 97/18

識別記号

F I
A 0 1 K 97/18

データベース*(参考)

審査請求 未請求 請求項の数 3 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願2000-161195(P2000-161195)

(22) 出願日 平成12年4月21日 (2000.4.21)

(71) 出願人 596129592

半野 次男

埼玉県川口市領家2の22の14

(72) 発明者 半野 次男

埼玉県川口市領家2の22の14

(74) 代理人 100099900

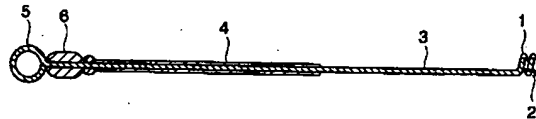
弁理士 西出 眞吾

(54) 【発明の名称】 釣魚の釣針飲み外し器具

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 釣ブームにより増えた釣人は、魚を釣り上げることを楽しみとしていて、釣り上げた魚を自ら食することを目的としていないことが多い為に、初心の釣人は釣針を深く吞み込んだ魚から釣針を外すことが出来ず、又、熟練した釣人も手で外すことは困難であるから、ハリスを切断して釣針を魚に残したまま放置したり、海や河に棄てていた。釣魚が飲込んだ釣針を容易に外すことが出来る器具が望まれていた。

【解決手段】 本発明の釣魚の釣針飲み外し器具は、等径、又は円錐状に巻いたスパイラル1の一端にハリス6を挿入する開放部2を有し、他端をスパイラル1の軸心と略平行になる方向に直線状に伸ばして柄部3を構成する。その柄部3にグリップ4を固定し、端部にリング状のリング状端部5を設け、さらに該リング状端部5の内側に蛍光又は蓄光樹脂により形成したビーズ玉6を設けたものである。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 等径、又は、円錐状に巻いたスパイラル1の一端にハリス6を挿入する開放部2を有し、他端をスパイラル1の軸心と略平行になる方向に直線状に伸ばして柄部3を構成した釣魚の釣針飲み外し器具。

【請求項2】 柄部3にグリップ4を固定し、端部にリング状のリング状端部5を設けた請求項1記載の釣魚の釣針飲み外し器具。

【請求項3】 柄部3にグリップ4を固定し、端部にリング状のリング状端部5を設け、そのリング状端部5の内側に蛍光又は蓄光の樹脂により形成したビーズ玉6を設けた請求項2記載の釣魚の釣針飲み外し器具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、釣針を深く吞み込んだ釣魚から釣針を外す、釣魚の釣針飲み外し器具に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、釣針を深く吞み込んだ魚から釣針を外す器具が無いために、手で外すことは困難であるからハリスを切断して釣針を魚に残していた。また、一部器具があつたが、それは器具の先端を釣魚の口の中を釣針を探して掻き回すものであるから結果的に魚体を痛めるものであった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】釣ブームにより増えた釣人は、魚を釣り上げることを楽しみとしていて、釣り上げた魚を自ら食することを目的としていないことが多い為に、初心の釣人は釣針を深く吞み込んだ魚から釣針を外すことが出来ず、又、熟練した釣人も手で外すことは困難であるから、ハリスを切断して釣針を魚に残したまま放置したり、海や河に棄てていた。釣針は鋭利な刃物と同様に凶器ともなる。従って、その放置した針付魚が腐敗した場合、子供がハリスを引っ張ると釣針は容易に抜けて子供の手に渡り危険であるし、針付魚が腐敗しても釣針は残って露出し、釣場やその近辺に散乱するから危険な状態になる。又、海や河に棄てた針付魚を捕獲した漁業者が、針付魚であることを知らないで販売した場合には、漁業者としての生命を断たれる状態にもなる怖れがある。又、針付魚を捕獲した鳥類にとって、針が刺さって抜け無くなり、そのまま飛び回っているなどしている。このように危険な釣針が様々な形態で危害を及ぼし、又、自然を循環して、人や鳥類等の動物までも危害を及ぼしているから、釣魚が飲み込んだ釣針を容易に外すことが出来る器具が望まれていた。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明の釣魚の釣針飲み外し器具は、等径、又は円錐状に巻いたスパイラル1の一端にハリス6を挿入する開放部2を有し、他端をスパイラル1の軸心と略平行になる方向に直線状に伸ばし

て柄部3を構成する。その柄部3にグリップ4を固定し、端部にリング状のリング状端部5を設け、そのリング状端部5内側に蛍光又は蓄光の樹脂により形成したビーズ玉6を設けたものである。

【0005】

【発明の実施の形態】

【0006】

【実施例】本発明の釣魚の釣針飲み外し器具を例示した図1、図2および図3で説明する。網線、ステンレス線等を用いて、ハリス6が楽に通過することができる間隔を有するピッチで、等径又は円錐状に1ないし数巻きしたスパイラル1を構成し、そのスパイラル1の一端は、ハリス6を引っ掛けて把握しスパイラル1内に挿入することができる開放部2を設け、他端をスパイラル1の軸心と略平行になる方向に直線状に伸ばして柄部3を構成した後、焼き入れ、焼きなましをしてスプリングのように強靱にしたり、メッキを施したりする。その柄部3に合成樹脂等で製作したグリップ4をはめて接着剤等で固定し、柄部3の端部をリング状にしてリング状端部5を構成する。その柄部3にグリップ4を固定し、端部にリング状のリング状端部5を設け、そのリング状端部5の内側に蛍光又は蓄光の樹脂により形成したビーズ玉6をを構成する。

【0007】図2及び図3に示すように、魚9が釣針8を吞み込んだ場合、ハリス7にスパイラル1の側部を当てて、柄部3を親指と人差し指とで摘んで矢印10方向にクルリと回すと、ハリス7は開放部2からスパイラル1の中に挿入されて図2の状態になり、スパイラル1の中に入ったハリス7はスパイラル1から外れることはなくなる。そこで、グリップ4又はリング状端部5を持って、スパイラル1をハリス7をガイドにしたりして飲み込んだ針8を矢印11の方向に押し込み針8に係合する。そして、更に押し込むことにより釣針8を魚9から放すことができるのである。その後、釣針8とスパイラル1とを共に魚9から矢印12方向に引き抜くと、釣針8の針先はスパイラル1に掛かったりして一体的になっているから、魚9の肉に食い込むことなく抜ける。又、食い込んだとしても、スパイラル1と共にグリップ4、リング状端部5を持って強力に引くことができるから、釣針8はスパイラル1と共に魚9から容易に引き抜くことができる。

【0008】図示していないが、開放部2のスパイラル1の一部の断面形状をナイフ状にして、釣針8が食い込んでいる魚9のまわりの肉を切って釣針8を取り出し易いようにすることもできる。又、形状も円形ばかりでなく矩形等様々な形状にして釣針8を強固に保持する構成にすることもできる。

【0009】

【発明の効果】本発明の釣魚の釣針飲み外し器具によれば、スパイラルの中にハリスを保持して魚が飲み込ん

だ釣針を容易に外すことができるから、従来のように釣針を深く呑み込んだ魚のハリスを切断して釣針を魚に残したまま棄てて放置したり、海や河に棄てていた為に、棄てた針付魚が腐敗した場合でも釣針は残っていても危険な状態になったり、海や河に棄てた針付魚を捕獲した漁業者が、針付魚であることを知らないで販売したことによって、漁業者としての生命を断たれる状態にもなる怖れが無くなった。又、針付魚を捕獲した鳥類に、針が刺さって抜け無くなるなど、危険な釣針が自然を循環して危害を及ぼすことも無くなった。グリップを設けた柄部により手が滑らないようにし、且つ、強固にスパイラルを保持することが出来るから、スパイラルを強く魚の中に押し込んで釣針を魚から容易に放し取り出すことができる。また、リング状端部を設けたことにより、釣魚の釣針飲み込み外し器具をベルトのフックに掛けて吊り下げしておくことにより、釣魚の釣針飲み込み外し器具の取り出し、保管が容易になり、釣魚の釣針飲み込み外し器具の操作が容易になることから、魚釣の楽しみが増加するという効果をも奏するものである。更に、蛍光又は蓄光樹脂で形成したビーズ玉を設けたことにより夜釣りの際に

も釣魚の釣針飲み込み外し器具の取り出し、保管場所が容易に解り、釣魚の釣針飲み込み外し器具の操作が容易に出来、魚釣の楽しみが一段と増加する効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の釣魚の釣針飲み込み外し器具の断面図である。

【図2】 釣魚の釣針飲み込み外し器具の使用状態を示す図である。

【図3】 釣魚の釣針飲み込み外し器具の使用状態を示す図である。

【符号の説明】

1～スパイラル

2～開放部

3～柄部

4～グリップ

5～リング状端部

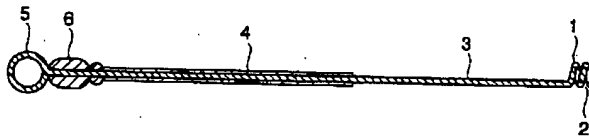
6～蛍光ビーズ玉

7～ハリス

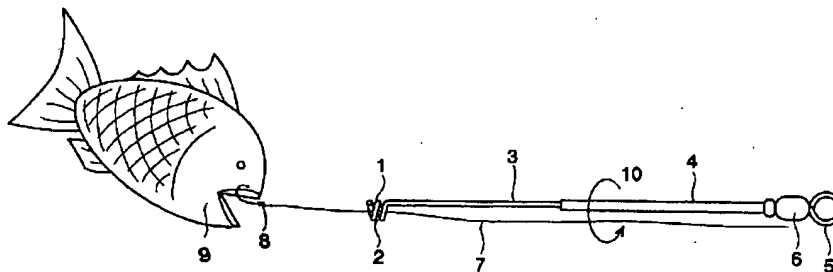
8～釣針

9～魚

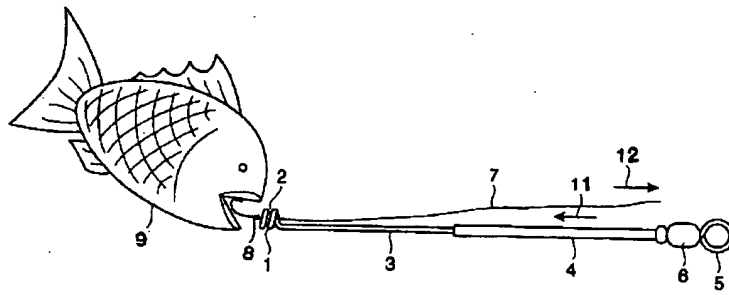
【図 1】



【図 2】



【図 3】



PAT-NO: JP02001299175A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2001299175 A
TITLE: UNHOOKING TOOL IN FISHING
PUBN-DATE: October 30, 2001

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
HANNO, TSUGIO	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
HANNO TSUGIO	N/A

APPL-NO: JP2000161195

APPL-DATE: April 21, 2000

INT-CL (IPC): **A01K097/18**

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a tool for easily undoing the hook that is gulped deeply into the throat by a fish, as the anglers increasing in the recent fishing boom almost enjoy only pulling up fishes from the water but does not want to eat them, in addition, the beginners cannot undo the hook gulped deeply and leave the hooked fish after only cutting off the line from the hook and release the fish in water or leave them on the land as the hook remains in the throat.

SOLUTION: The unhooking tool according to this invention has the release part 2 into which the fishing leader is inserted on one end of the spiral 1 that is coiled in a cylindrical (in an equal diameter) or conical shape and the

other end is straightly extended in almost parallel with the axis of the spiral
1 to constitute the handle 3. The gripper 4 is fixed to the handle 3, a
ring-form end 5 is formed at the edge end, further a bead 6 made of a fluorescent or luminous resin is set inside the ring-form end 5.

COPYRIGHT: (C)2001,JPO